

リベリア ニンバ山脈地帯森林保全プロジェクト

現地からのお便り

2016年5月
コンサベーション・インターナショナル

保全契約

東ニンバ自然保護区の周囲に暮らす2つのコミュニティと、保全契約の大きな柱である保全活動と生計向上プロジェクトを特定することができました。東ニンバ自然保護区の自然が直面している課題に対する対策が保全活動であり、その代わりに、将来にわたって自然と共存できる生活に切り替えていくためにコミュニティが受ける支援が生計向上プロジェクトです。保全活動と生計向上プロジェクトは、一方的に提示するものではなく、コミュニティと共に考えます。決めるのは容易ではなく、時間がかかります。プロジェクトにとって、大きな一歩です。

保全活動としては、保護区内での狩猟や農地開拓などをやめることなどが特定されました。そして、生計向上プロジェクトとして、自給用の食料を安定して生産するための、稲作の改善や複数種類の野菜栽培の導入が選ばれました。また、コミュニティには、狩猟を生業としてきたメンバーがいるため、彼らが野生動物を狩るのではなく、守ることで収入を得られるよう、「フロントライン保護官 (Frontline Conservationist) 」としての訓練も生計向上プロジェクトに加えられる予定です。フロントライン保護官は、森を見回り、生物のデータを収集し、住民と野生動物の間の軋轢の解決に協力し、保全や持続的土地管理に関する普及啓発を行います。そして、それに対する報酬として毎月収入と実地訓練を受けることができます。

保全契約の内容が出来上がり、いよいよ次は署名です。それぞれの村で、署名式を開き、保全契約の開始を祝う計画です。



保全契約の内容に関する話し合いに参加するコミュニティメンバー：

(左) Gbopayee 村、(右) Yolowee 村

©Conservation International/photo by Edward Massaquoi

東ニンバ山自然保護区の周りでの環境教育と普及啓発

4月29日、ニンバ郡コミュニティカレッジの学生間でのディベートを行いました。参加したのは、科学・農業学部で自然資源管理学、林学、農学、採鉱学、地質学などを学ぶ学生たちです。3人の審査員が大学から指名され、議論の進行を助めました。ニンバ北部の自然資源の採掘に関わる様々なトピックが議論されました。非常に活気ある議論が繰り広げられ、大成功でした。



ニンバ郡コミュニティカレッジの学生によるディベートの様子
©Conservation International/photo by Edward Massaquoi

環境クラブ

これまでのお便りでご報告していた、東ニンバ自然保護林の周りの10の小学校での環境クラブ。環境クラブは、生物多様性、汚染、気候変動といった環境に関する授業を教える指導者がリードしています。生徒たちがどのくらいきちんと学んでいるか知るため、10の小学校から生徒を集め、「試合」を行いました。それぞれの環境クラブから選出された5人のメンバーは、素晴らしい熱意をもって、これまで学んだことを説明することが出来ました！



これまで学んだことを話す環境クラブの生徒たち
©Conservation International/photo by Edward Massaquoi

※画像および文章の無断転用はご遠慮ください。